

歩道上自転車駐車における自転車利用者の意識実態

福井工業大学 正会員 和田章仁

1.はじめに

現在、全国のいくつかの都市で鉄道駅周辺およびその周辺の商店街において、放置自転車対策の一環として、歩道上に自転車駐車（以後「駐輪」という）区画を設置することが試みられている¹⁾。そこで、本研究では今後の駐輪対策の方向への示唆を得るため、福井駅周辺に設置されている歩道上の駐輪区画（「駐輪エリア」と名付けられている）を対象として、その利用者およびその周辺歩道に駐輪している人々に対しアンケート調査を実施することにより、自転車利用者による駐輪エリアの利用実態ならびに駐輪エリアの拡大・縮小の意向を調査することにある。

2.調査の概要

調査は、福井駅前およびその周辺商店街に駐輪している人々を対象としてアンケート調査票を手渡し配布し、回収は郵送とした。調査日は平成12年10月11日（水）と同年10月15日（日）である。配布数は479票で、回収数は175票、回収率は36.5%であった。

設問項目は属性、駐輪状況および駐輪エリアの利用状況である。

3.被験者の駐輪特性

(1) 被験者の年齢構成

被験者の年齢構成は図-1に示すように、10才代から60才代まで10%の前半から後半までほぼバランスがとれているが、年齢が高くなるにつれて割合も高くなっている。ただし、70才以上については低い割合となっている。

(2) 被験者の駐輪目的

被験者の駐輪目的では、買い物が約65%と高率で、通勤・通学が20%で続いている。なお、その他の項目は業務・商用、家事等である（図-2参照）。これらの目的を通勤・通学、買い物および娯楽・食事を含めた

その他の3項目として、目的別の駐輪時間をみると、通勤・通学では5時間以上が70%を超えていることから長時間駐輪していることがわかる。また、買い物では30分未満から5時間までのどの時間帯にも20%以上を占めていることから、比較的短い時間帯を中心に駐輪していることがわかる。さらに、その他は1時間未満が低く、1時間から5時間未満が比較的高率であることから、比較的長い時間帯を中心に駐輪していることがわかる（図-3参照）。

(3) 被験者の駐輪頻度

目的別の駐輪頻度をみると、通勤・通学はほとんど毎日駐輪されており、ときどきを加えると約95%を占めていることから、駐輪頻度が高いことがわかる。一方、買い物では、ときどきとまれにを加えると8割を超えていることから、頻度的にも中程度の駐輪といえよう（図-4参照）。

4.駐輪エリアに着目した分析結果

(1) 駐輪エリアに対する被験者の認識状況

福井駅周辺や商店街の歩道上に設置されている駐輪

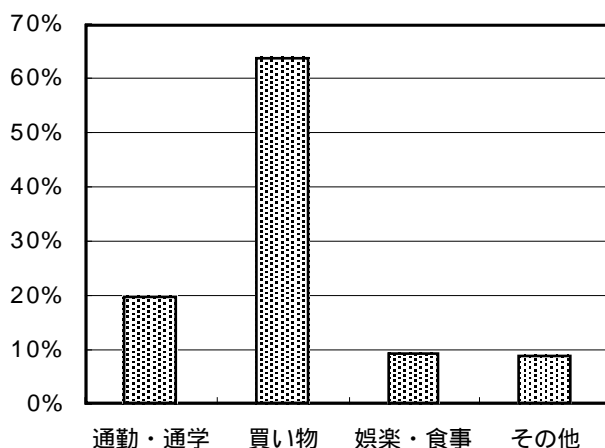


図-2 被験者の駐輪目的

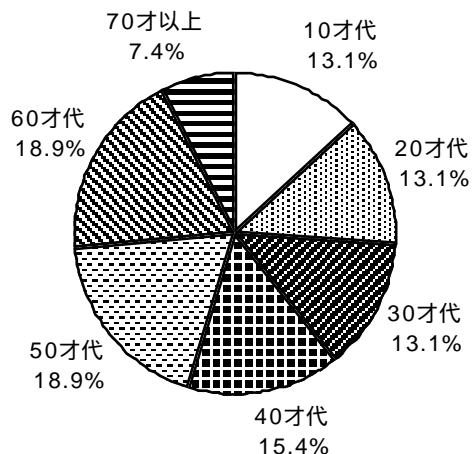


図-1 被験者の年齢構成

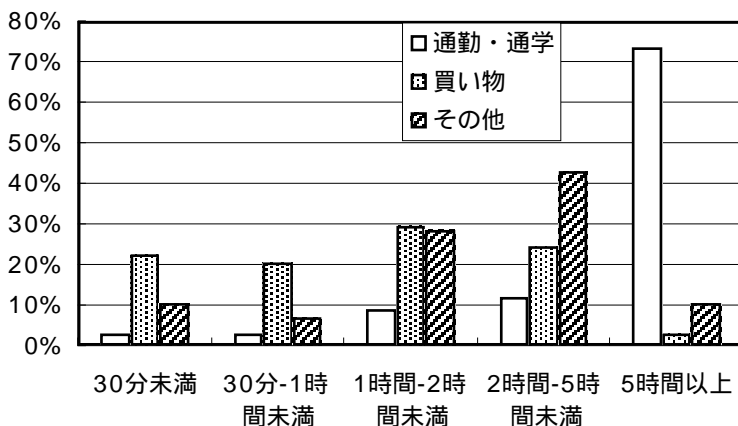


図-3 駐輪目的別の駐輪時間

キーワード；歩道上自転車駐車、商店街、福井
 連絡先（福井市学園3-6-1 福井工業大学 電話；0776-22-8111 FAX;0776-29-7891）

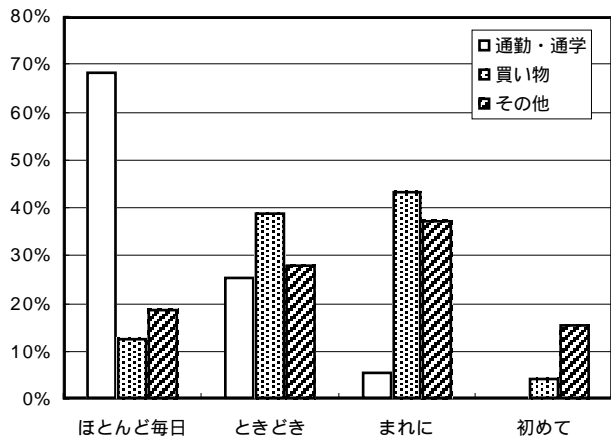


図-4 駐輪目的別の駐輪頻度

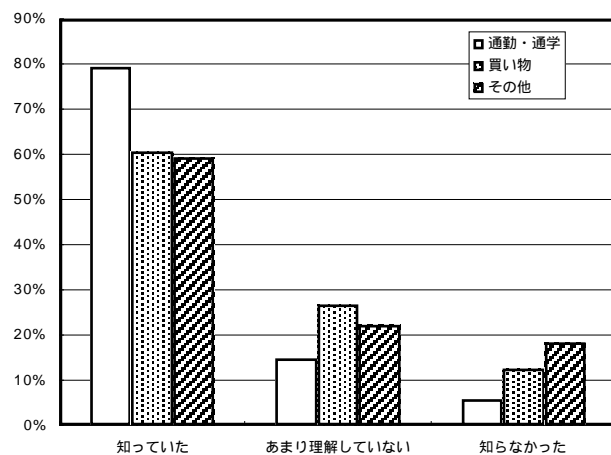


図-5 被験者の駐輪エリアに対する認識率

エリアに対して、被験者が知っているかどうかを駐輪目的別に集計した結果が図-5である。これを見ると、通勤・通学は80%が知っていると回答しており、他の目的と比較して認識度が高いことがわかった。また、買い物とその他では、知らなかったがその他で若干高かったものの、全体としてほぼ同じ傾向である。

(2) 駐輪エリア内への駐輪意識

駐輪目的別にみた駐輪エリア内への駐輪意識は、全ての目的において駐輪エリアを意識している人が約8割にもものぼることがわかった。しかしながら、それら駐輪目的間での違いはあまり見受けられなかった(図-6参照)。

(3) 目的店舗前への駐輪意識

買い物や娯楽、食事など用務目的の店舗前への駐輪に対する意識を、買い物と通勤・通学を除くその他の2項目で比較すると、買い物では目的の店舗前に駐輪する意識は、必ずとできる限りを合わせると9割を超えていることから、買物をする店舗の前に駐輪する意識が他の目的と比較して高いことがわかった(図-7参照)。

(4) 今後の駐輪エリアの拡大・縮小意向

現在設置されている駐輪エリアを、今後どのようにするかを質問した結果が図-8である。これによると、買い物客であっても通勤・通学などのその他の駐輪目的の人であっても、ほとんどその傾向は変わらないことから、駐輪目的にかかわらず7割弱の人々が今後の駐輪エリアの拡大を望んでいることがわかった。

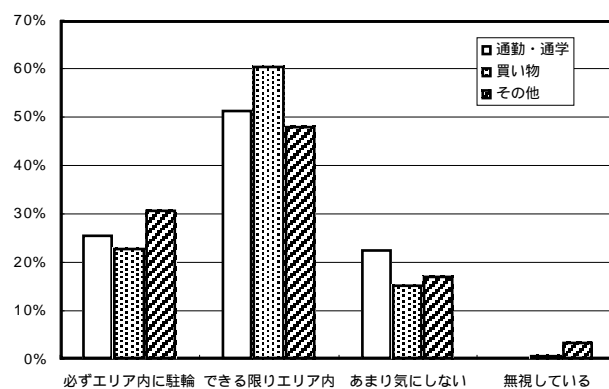


図-6 被験者の駐輪エリア内への駐輪意識

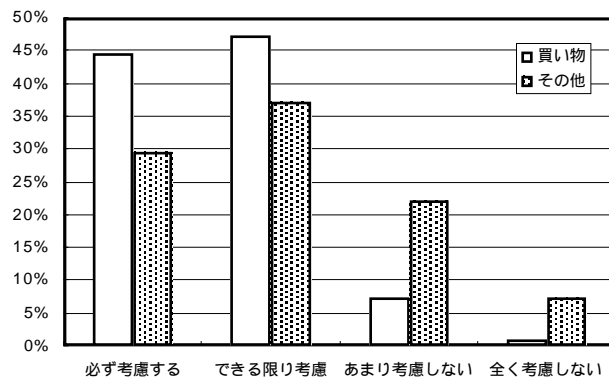


図-7 目的店舗前への駐輪意識

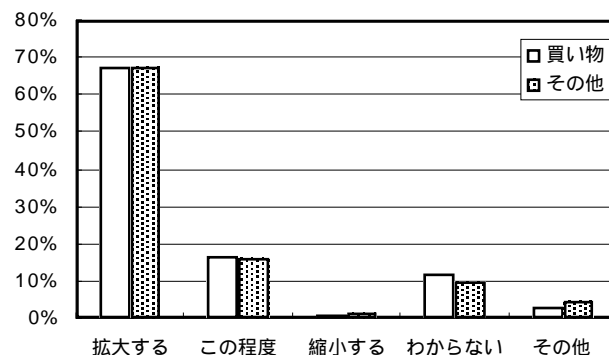


図-8 今後の駐輪エリアに対する被験者の意向

5.まとめ

本研究では、JR福井駅前およびその周辺商店街を対象として、歩道上に駐輪している自転車利用者を対象としてアンケート調査を行い、次のような結果を得ることができた。

駐輪目的のうちの通勤・通学では、駐輪時間が長く頻度も高いことから、8割の人が駐輪エリアに対して認識していると回答している。また、全体の8割の人が、駐輪エリア内に意識して駐輪していることがわかった。さらに、用務目的地としての店舗前への駐輪については、買い物客では9割の人が意識して駐輪していることが判明した。なお、今後の駐輪エリアについては、駐輪目的に関係なく約7割の人が拡大を望んでいることから、将来的に駐輪エリアの拡大に向けての研究・検討が必要と考えられよう。

参考文献

1) 和田章仁・木戸伴雄；歩道上自転車駐車に対する沿道商店街の意識実態に関する分析,交通工学研究発表会論文報告集,pp.145-148,2000年10月